

極意伝承！第四項

機能訓練が苦手なりハビリ職員ほど
シーティングは上手くいく！
利用者の座位が崩れたら
『1000%〇〇のせい』にすべし！

あえて、リハビリの得意分野である機能訓練を捨てましょう。
そして、車イスとだけ向き合いましょう。
これが、安藤のシーティングの【極意】です。

座位のことを思えば、機能訓練は苦手なほうがいいんです。
そのほうが、よそ見せずガツツリ車イスと向き合えますから。

下手に訓練上手な方だと、どうしてもそこを選択肢として捨てきませんからね。
そこは、リハビリが専門職として生き残ってきた道でもありますから…。

……訓練をして機能が回復するのは、素晴らしいことだと思います。
確かに機能さえあれば、座れるようになる方は大勢います。

ところで、その方の機能が回復するのは、いつ頃ですか？

一週間待ってれば、座れるようになりますか？
一ヶ月我慢すれば、座位は整ってますか？
一年経って一歳年をとれば、機能は回復してますか？

気長に【待てる方】ばかりじゃないことを、あなたはよく知っていますよね。
ほしいのは『いつか』の座位じゃなく、『いまこの瞬間』の座位ですよね。

リハビリという職業上、機能訓練が求められるのはすっごくわかります。
でも結局、訓練で目指しているのは【快適な暮らし】ですよね。
そこにたどり着くために訓練が近道じゃないなら、ぼくはやめます。
職種としてのプライドより、利用者の暮らしのほうがよっぽど大事ですから。

本気で、本気で、本気で、本気で、車イスをいじってみませんか。
『利用者』と向き合うのではなく『車イスに座った利用者』と向き合いませんか。
それだけです。本当にそれだけで、利用者はすぐ座れるようになりますから。

最後に、車イスも利用者も、どっちもちゃんと見れる能力が高い方は、
もちろん両方みてもらうのがベストだと思います。まさにプロフェッショナルの姿。

……悲しいかな、ぼくにはそれが【能力上】叶わなかったんです。
結局どっちも中途半端になって、座位も中途半端。

機能訓練で成果を出せてればまた違ったシーティングになってたと思いますけど、
いまは心の底からこれで良かったと思ってますよ。
だって、時間にすっごく【ゆとり】が持てるようになったので。

昔は座位が崩れる方に対して必死に機能訓練してましたけど、
今はその時間を丸ごとすっぽり他の大切なことに使えるようになりました。

その方と神社にお散歩いったり、グダグダコーヒー飲んだり、
愚痴聞いてもらったり、人生相談したり、
肩もさせてもらったり、レクで笑いあったり、そんなことに使えますから。
ちなみにこの資料も、そんな時間でつくってます。笑

生きてれば、座位以外にも大切なことなんて山ほどあるじゃないですか。
ぼくらは【きれいに座るため】に生きてるわけじゃないですね。
……なんか、そんな感じです。

以上で、シーティングの極意伝承は終わりです。

この資料が、少しでもあなたのお役に立つものであったなら嬉しいです。
あなたのこと、応援しています。最後まで読んでください、ありがとうございました。